

第2回 香川県産業成長戦略に関する懇談会議事録（要旨）

開催日時 平成29年11月16日（木）10:00～11:30

開催場所 県庁本館21階特別会議室

出席委員 井原委員、大津委員、久保田委員、竹内委員、竹崎委員、長濱委員、原委員、平井委員、正木委員、三矢委員、八尾委員、山本委員

- 1 「香川県産業成長戦略」の素案について
産業政策課長が資料①、資料②を説明した。

【委員発言要旨等】

（会長）

- ・これから意見交換に移らせていただきたい。どなたからでも、ご発言いただきたい。

（委員）

- ・戦略自体は支持し、補足を述べる。
- ・海外展開企業数の目標値の上方修正について協力していきたい。
- ・「県産ブランド農畜水産物の世界への発信」について、農林水産物の海外展開は政府の目標にもなっており、県と一緒に取組みたいと考えている。
- ・企業立地について、「国内外」という表現が入り、国内・海外の企業を問わず誘致する戦略になっている点を支持する。
- ・海外の富を地域にいかにつけてくるか、あるいは地域の成長に海外の力をどのように活用するかについて、また、戦略全体についてできる限りのことを協力していきたい。

（委員）

- ・基本的には良いと思うが1点、述べる。
- ・「観光関連分野」について、宿泊を伴う滞在型を伸ばす意味で、夜に観光客が行えることを充実させることが重要だと考えている。少しでも観光客が夜に何かできることを充実できればいいのではないか。

（委員）

- ・私も同様の思いがある。高松市の丸亀町通りで夕方5～6時には北から南に人が流れ、9時くらいになると南から北に帰っていく、また、朝には栗林公園に移動する大きな流れがあり、何かないかを探している観光客に対して、何か助け船が出せないかを考えている。

- ・高松空港では、20便40往復、その他、定期チャーターが2便あり、空港が民営化されれば、さらに路線が増えることが期待できる。
- ・観光客を増やす4つの要素（コンテンツ、プロモーション、アクセス、おもてなし）のうち、香川県が一番成功しているのはアクセスであるが、受け側の状況は変わっていないと感じる。ホテルは不足気味であり、地域としての迎え方（おもてなし）をもう少し充実させないと、リピーターになってもらえない。これから先、空路が増え、高速道路の4車線化が始まり、地域外の人が増えてくる中で、現在のキャパシティや状況のままではいけないと感じている。

（会長）

- ・観光関連の話が続いたので、関連して述べる。オランダから来られた外国人にお目にかかり、「セントラルパークに行きたい。」と言われ、中央公園を案内しようとしたが、再度確認すると、中央公園ではなく栗林公園であった。インバウンドの方が増えている点や、夜の時間の過ごし方については、前々から海外の方だけでなく、国内の観光客の方にも言われたことがあり、このテーマについて他にご意見があれば。

（委員）

- ・インバウンドの宿泊者数のデータが発表されているが、従業員数10人以下のデータが全数入っていない。本当の宿泊者数を細やかに調査する必要があるのではないか。
- ・航空便の増便について、香川県は四国のプラットフォームとしてインバウンドの入口・出口という形で推進しているが、例えば香川県からタイに行く場合には台湾便を利用し台北から乗継ぎでタイへと勧められるが、タイから台北経由で香川県に来るルートは、予約が取れないという声がある。
- ・案内表示に関しては、英語、中国語、韓国語の表記を香川県が進めている3本柱であるが、せめて東アジア、東南アジアなどの言語対応についても検討いただきたい。
- ・この他、横断的な戦略に関して、インバウンドも含め、それを担う人材の育成が重要になると思うので、女性を始め、ダイバーシティの推進を多様な分野でお願いしたい。

（会長）

- ・他のテーマで、何かないか。

（委員）

- ・「先端技術や基盤技術を活用したものづくり分野」、「エネルギー・環境関連分野」について、全体的には我々の意見が反映されている。コメントになるが、競争力維持の観点で、人手不足を背景としたIoT、AI、ビッグデータ、ロボットの利活用についての言及がされている。

- ・先端素材の活用について、炭素繊維に加えてCNFを加えたことが好ましい。将来を見据えた技術開発が盛り込まれたことや、再生可能エネルギーの促進、そして水素など次世代エネルギーについて記載されたことについて賛成する。
- ・蓄電池について、これまでの取組みにはリチウムイオン電池の記載があるが、どのように位置付けるのか。蓄電池の需要は高まると予想されるので、県内企業にも頑張ってもらいたい。
- ・地域未来投資促進法にも触れられており、具体的な実施については、一緒に取組んでいきたい。

(委員)

- ・観光関連分野のインバウンド対策でこれまでは東アジアが中心であったとしても、今後は東アジアだけでなく、欧米豪を入れた方がいいのではないかと考える。
- ・中小企業の方が新たな商品開発をしても、販路を拡大することが難しいと聞いている。業界全体の発展のためにも、競争を促進するという視点が重要であると考えている。
- ・ストーリーテリングによる情報発信が有効と考えるが、例えば、横断的戦略2の施策展開のマーケティング力の強化支援に結び付けて、全ての産業に共通する横断的戦略として加えてもいいのではないかと考える。
- ・実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の記述に、専門職大学院との連携による人材育成の促進などを追記してはどうか。
- ・ライフスタイルに関して、横断的戦略4でUJIターン、働き方改革、女性活躍についての記載があるが、日本全体に通用する内容になっている。地域性・環境といった香川らしさをアピールするといいいのではないかと考える。

(委員)

- ・中小企業の経営は厳しいものとなっている。そうした中でAI、IoTへの取組みが経営者にとって負担になっており、団塊の世代の経営者が引退の時期を迎える中、事業の承継が課題である。
- ・人材育成について、大学が団塊世代の方にリカレント教育として、AI、IoTを取り入れた戦略、戦術を教えることで、そこから第二創業に転換していく可能性も見えてくるのではないかと考える。
- ・女性の働き方改革、ワークライフバランスに関して、欧米と比べると女性の管理職の人数が少ないので、女性の人材開発を含めて取り組んでももらいたい。また、定年された方にある程度の賃金で香川県に来てもらい、若い人の教育係も兼ねて働いてもらえれば、人材育成と人材不足の対策となるのではないかと考える。

(委員)

- ・素案全体については、支持する。その上で2点コメントする。
- ・I o T、A I について、今後の産業の成長に大きく影響するものであり、施策の遂行を期待するが、農業分野への活用支援にも取り組んでもらいたい。こうした技術の利活用によって、求められる作物を求められる時期に求められる量だけといった香川型の農業にも極めて有効であると考えている。
- ・オリーブ産業について、プレミアムオリーブオイルの一層の高品質化に加えて、やや廉価なオイルを安心、安全、信頼される国内産、とりわけ香川産のものがあればと思う。そのためには生産体制、生産方法、あるいは工場立地など、これまでとは異なる課題も多いとは考えるが検討いただきたい。
- ・加えて、新たな高等教育機関について「専門職大学院に加えて、新たな」という表現になれば幸いである。

(委員)

- ・全面的にサポートしたいと思っている。そのうえで3点ほど述べる。
- ・人手不足が成長の制約になってきているという思いを抱いている。バブル崩壊後の日本はずっと需要不足に悩まされていたが、供給面の制約という日本経済が新たな課題に直面しつつある。
- ・大都市圏より、地方の人手不足がより深刻であり、I o T、A I 技術を活用した生産性向上の取組みは重要であると思っているし、今後の取組みを期待している。
- ・観光分野、特にインバウンドに関連して、様々な方が読めるアルファベット表記の充実が重要ではないか。
- ・成長戦略について、改訂版ができて一段落ということではなく、フォローアップが大切だと思っている。環境変化は早くなっており、成長戦略の見直しについても5年とおかずに必要になる可能性もある。そういう意味で不断の見直しが重要である。

(委員)

- ・前回述べた、創業、第二創業、またベンチャー企業の創出支援を引き続き取り組むことの記載があるのでありがたい。
- ・新しい商品を開発した後の販路開拓の支援、海外への販路開拓も含めて、ニーズが高いと感じている。
- ・現在も県で様々な展示商談会、見本市への出展支援をしているが、引き続き充実してもらいたい。併せて中小企業、中でも下請け企業の方の取引拡大の支援をお願いしたい。

(副会長)

- ・県外への投資による利益の獲得、あるいは県外から呼び込むというものがあってもいい

のではないか。

- 例えば、教育現場では言えば、名前の通った有名私立大学のサテライトを香川に作れるのではないか。また、中小企業の後継者問題については、県外からの人材活用ができるのではないか。

(会長)

- 素案については委員の皆様方から一通りご意見をいただき、皆様から高い評価をいただいた。
- 実際の施策としてどのように遂行するのか、また、財源はどうするのかなど、施策の優先度を付けて取り組んでもらいたい。
- 特に委員から何か付け加えたいということあればいただきたい。
- 県から何かあれば。

(知事)

- 貴重な意見をいただいた。会長とも相談して、取りまとめていきたい。
- 海外展開の目標は既に達成しているが、より伸ばしていきたい。
- 観光に関しては、特にインバウンドを意識したナイトライフのようなもの強調したいと思っている。県では、夏はサマーナイト、春、秋は栗林公園のライトアップをしているが、多言語で表示をしっかりとしないと、というのは指摘のとおりで、スマホでの表示に力を入れてきたが、ベーシックな案内表示と、アプリなどの活用のバランスもとってやっていきたい。
- 現在の宿泊統計について、従業員10人以下のデータはいわば抽出の答えであり、そういった点を意識して取り組んでいきたい。
- 空港便の乗継について、県からもエアラインの方に要望していきたい。
- 蓄電池の位置づけ、また、インバウンドの欧米豪の話についても、何らかの形で対応が必要であり、付け加えられれば。
- 競争促進、ストーリーテリング、また、ライフスタイルでの全般的な香川らしさといったキーワードについて、県民の皆様にも戦略をご覧いただくという意味でも付け加えられれば。
- もう少し「専門職大学院含む」や「専門職大学院をはじめ」といった表示をしていきたい。また、素案に記載している専門職大学は、新しい職業教育に特化したものを指しており、こちらは日本全体でこれからというところを県からも支援していきたいということである。ご理解いただければ。
- 事業承継については、委員の皆様のご意見もあるので、もう少し強調していきたい。
- 中小企業への支援については、これから取り組んでいくことをもう少し分かりやすくしたいと思っている。

- ・ 県外からの力や投資は重要と思っており、移住、定住といった、香川への人の流れを念頭においた取り組みを、より分かりやすくしていければと思っている。
- ・ 私立大学の誘致については、小豆島で理化学研究所と慶応大学が研究を組んでいるがそういうものがさらに定着していければと思っている。
- ・ 県としては海外の見本市への出展支援等をしているが、海外に出ようとする元気のある中小企業をさらに後押しするような施策が必要かと思う。
- ・ 会長とも相談して、まさにベンチマークとなるような戦略に仕上げていければと思うので皆様の御協力をいただきたい。

(会長)

- ・ 知事の話も含めて何かあれば。
- ・ 無いようであれば2回目の懇談会を終了したい。
- ・ 事務局においては、委員からの意見、提言を踏まえて、修正があれば加えてよりよい戦略の取りまとめをお願いしたい。
- ・ その他、事務局から何かあるか。

(事務局)

- ・ 今後のスケジュールについて説明する。
- ・ 本日、お示しした素案については、条例に基づき11月定例議会で審議し、本日の意見・やパブリックコメントも含めて第3回の懇談会でお示ししたい。
- ・ 次回は1月31日水曜日を予定している。

(会長)

- ・ それでは以上で終了する。